

2023年版

コンプライアンス教育を成功させるためのポイント整理

株式会社イー・コミュニケーションズ

コンプライアンス教育を成功させるために

コンプライアンス教育が失敗する要因

3

成功のポイントを整理する前にコンプライアンス教育を失敗パターンを整理



受講者が興味を持ってない

その理由

1. 現場で役に立たない（実践的ではない）
2. 興味が持てない（法律は苦手など）
3. 業務で忙しいので学習の時間が見つからない（忙しい）

コンプライアンス教育が失敗する要因

4

成功のポイントを整理する前にコンプライアンス教育を失敗パターンを整理

ゴールが不明確（教育の目的、ゴールが不明瞭）

コンプライアンス教育の目的は主に以下の5つに分類されますが、そのゴールが不明確になる事も要因です。

1. 法令を理解する事
2. 業務シーンでの適切な判断力の育成
3. 1人1人の意識向上、風土構築
4. 理解力の現在値測定
5. 教育履歴の獲得

コンプライアンス教育が失敗する要因

5

成功のポイントを整理する前にコンプライアンス教育を失敗パターンを整理



テーマ選定ミス

現在コンプライアンスのテーマは多岐にわたります。

- ・ カテゴリテーマ：独禁法、景表法、下請け法、ハラスメント
- ・ 階層別テーマ：管理職向け、一般社員向け、アルバイトスタッフ向け
- ・ 業界テーマ (例) 守秘性の高い個人情報の取扱、保険金の取扱い
- ・ 自社のリスクテーマ トラブル時の対応、広告コンテンツの不適切表現

すべてのテーマを網羅的に教育を行うのか。
もしくはテーマを絞って教育を行うのか。

成功のポイント3つ

いかにして受講者に興味を持たせる事ができるか



コンプライアンスの意義をきちんと伝える。
「コンプライアンス=法令遵守」ではない。

いかにしてゴールを設定するか



世の中の期待に応えるため

いかにしてテーマを選定するか



どんなテーマを取り扱うか

いかにして受講者に興味を持たせる事ができるか



コンプライアンスの意義をきちんと伝える。
「コンプライアンス=法令遵守」ではない。



コンプライアンス
||
法令遵守
法令を勉強しよう



共有されるべき定義

コンプライアンス=世の中の期待に応える事



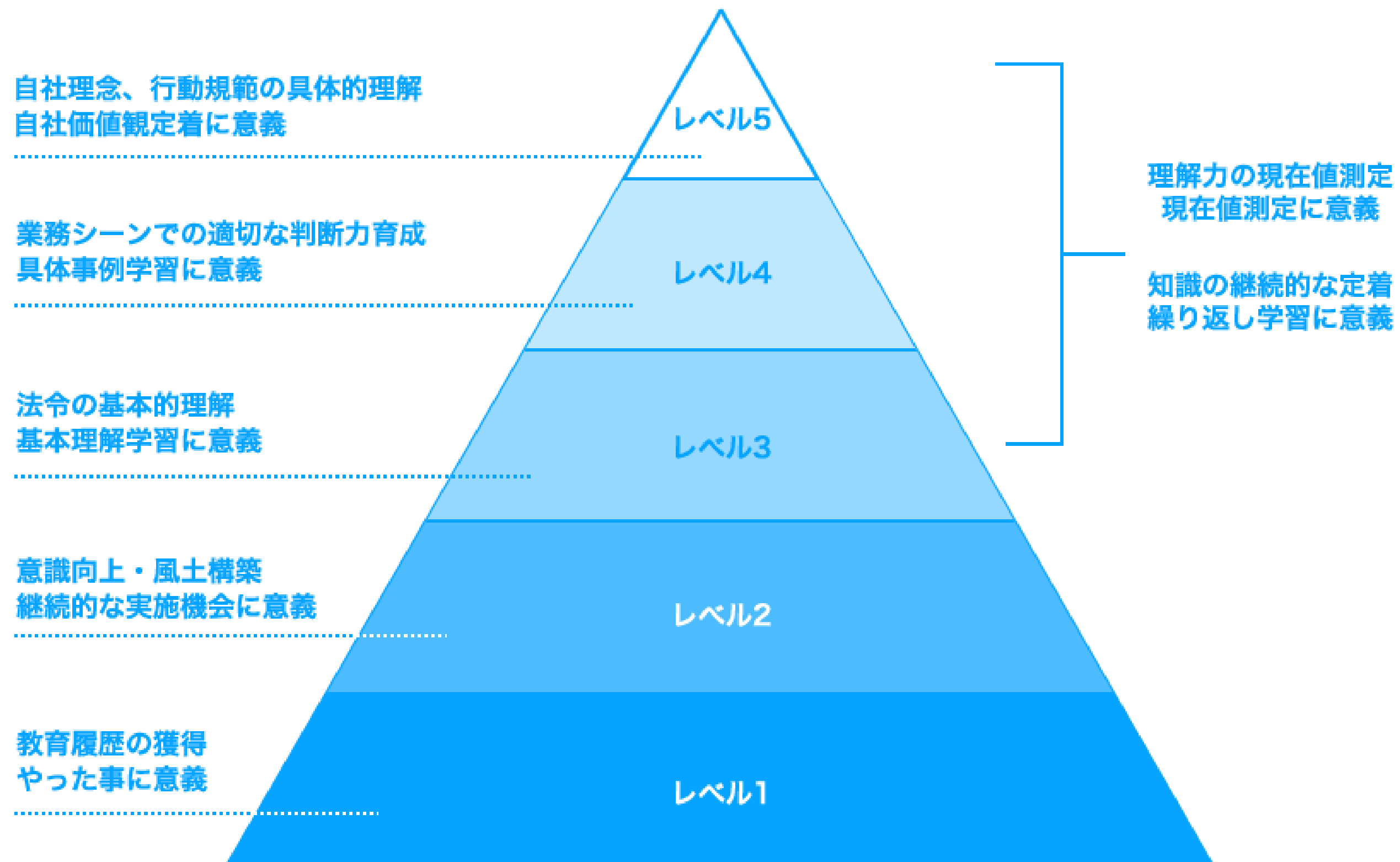
コンプライアンス
||
世の中の期待に応える事
現場で役立つ知恵を勉強しよう



いかにしてゴールを設定するか



世の中の期待に応えるため



いかにしてテーマを選定するか



どんなテーマを取り扱うか

テーマ選定のポイントは4つ

1. 企業として要求される共通テーマ(上場企業水準レベルで絞り込み)
2. 業界、事業との関係性が深いテーマ(業界、事業で絞り込み)
3. 社会の関心の高いテーマ(不祥事テーマで絞り込み)
4. 自社TOPIC(改正時、リスク重要度で絞り込み)

◎メリット

必要な領域に絞り込む事で、限られた時間で効率の良い学習が可能

▲デメリット

その領域以外の理解度を把握する事が難しい

教育手法を検討する

教育手法を適切に選択するとさらに成功に近づく

教育手法は、集合研修、Eラーニング、ビデオ学習、冊子教材配布、OJT、まで。多様な手段があります。それぞれのメリット、デメリットを理解し、適切な選択を行う事が効果に影響を与えます。

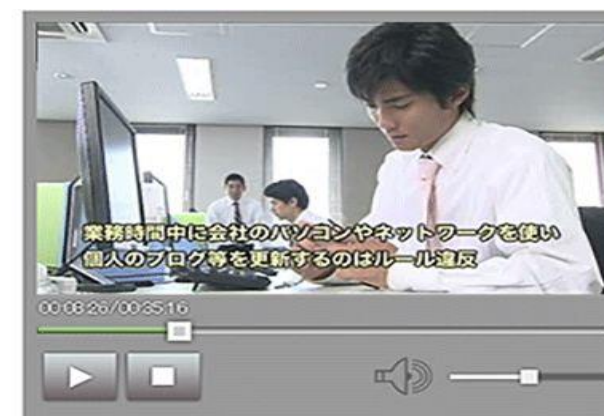
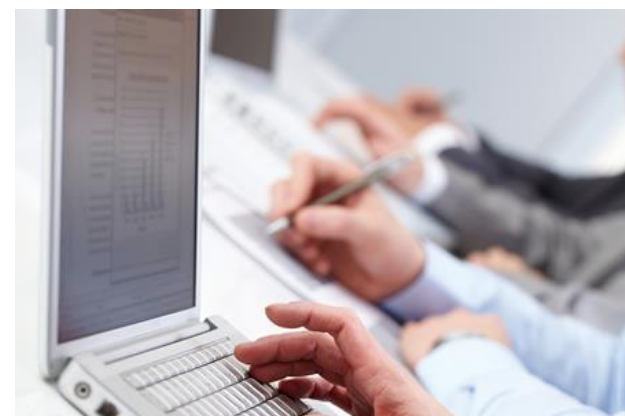
集合研修

Eラーニング

ビデオ学習

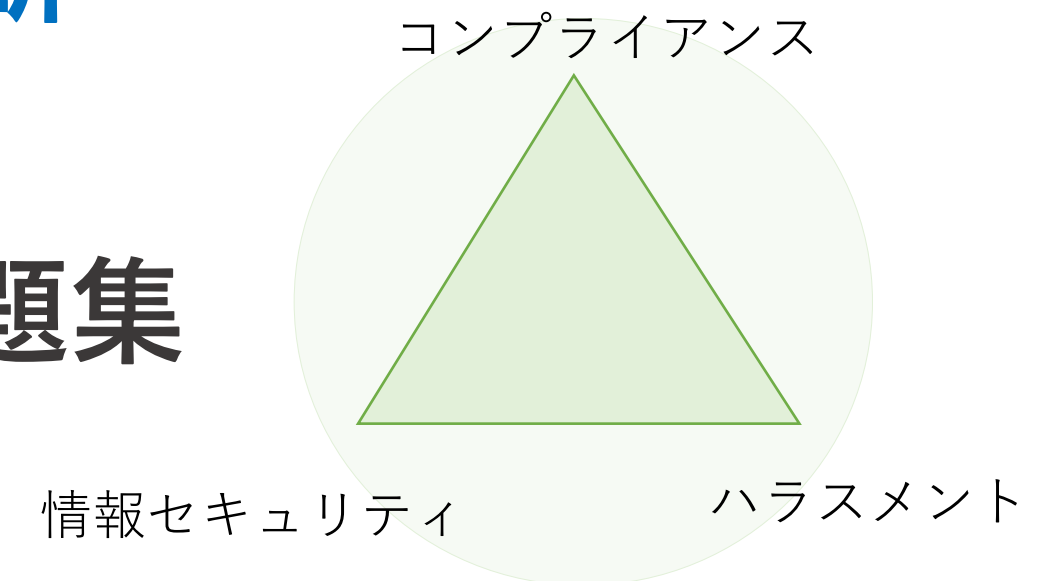
冊子教材

OJT



HAT ハラスメント・情報セキュリティ実力診断

求められる企業のリスク対策教育に
職場のリスクの見える化から教育まで行える基本問題集



チェックテスト=実力診断
(Webテスト)



教育用問題集=Eラーニング

Webテスト・eラーニングプラットフォーム



企業の3大リスクである「コンプライアンス」、「ハラスメント」、「情報セキュリティ」に関するそれぞれの実力診断により現在地を知り、教育へと繋がります。
PC、スマホ、タブレットで受講できるeラーニングで、サクサク学習が可能です。

1

プリンシプル・コンサルティング・グループ制作・監修！
職場で最も気になるハラスメント、情報セキュリティ、コンプライアンスの基本を網羅した問題集。

2

職場のリスクを見える化するためのチェックテストをご用意。
3つのカテゴリをそれぞれ実力診断できるため、強み、弱みを現在地測定することができます。

3

知識を“自分事”に落とし込む問題
知識問題の他に、よくあるシーンでの行動を問い考えさせる問題を用意。

4

チェックテストの他に、簡単な『Yes、Noサーベイ』をご用意。
意識調査を手軽に行えます。



プリンシプル・コンサルティング・グループ 代表者 秋山進 (Susumu Akiyama)

コンプライアンス、情報セキュリティ、メンタルヘルスなど組織と人に関わる問題解決のプロフェッショナル集団。本診断はトヨタ自動車で法務及びPL対応に従事した千田直人、シスコシステムズなどを経て情報セキュリティ及びBCP支援を行う林田朋之、米国および日本で長年メンタルヘルス支援を行ってきた福島県立医大特任准教授の八木亜記子が作成し、代表の秋山が全体の統括を行った。

(主な著書)



プリンシプル・コンサルティング

コンプライアンス、リスクマネジメントに関わる体制構築、運用等のサポート



プリンシプル BCP 研究所

危機管理、BCP、ITに関わる体制構築、対応策、運用等のサポート



プリンシプル HR コンサルティング

中堅、中小、成長企業を対象としたリ・ストラクチャリング(組織最適化)支援



プリンシプル住まい総研

住まいにかかわる企業を対象とした集客戦略・人材戦略等の立案サポート



プリンシプル情報構造化研究所

言葉や数値を論理的に考え、文書等で構造化して伝える技術の提供



プリンシプルアセスメント研究所

サーベイ、アセスメントに関わる開発・結果分析を通じて企業を支援

プリンシプル・コンサルティング・グループ



プリンシプル見える化研究所

社内啓発活動や業務改革を「見える化」の観点から支援



プリンシプル・エグゼクティブ・コーチング研究所

経営層を対象としたコーチング、コンサルティング、研修を提供



プリンシプル職場の心理学研究所

言葉や数値を論理的に考え、文書等で構造化して伝える技術の提供



プリンシプルビジネス発掘研究所

サーベイ、アセスメントに関わる開発・結果分析を通じて企業を支援



プリンシプル・ホテル コンサルティング

社内啓発活動や業務改革を「見える化」の観点から支援

①チェックテスト実施



ハラスメント、情報セキュリティ、コンプライアンスの基本から10問ずつ計30問のチェックテストを実施。職場のリスクに対する理解度を測定。

②サーベイ実施



ハラスメント、情報セキュリティ、コンプライアンスから選んででき『Yes、No サーベイ』を実施。それぞれの領域の意識調査が可能。一般的に知らないとリスクになる。質問項目に応えることで、従業員の意識を調査することが可能です。

③学習



ハラスメント、情報セキュリティ、コンプライアンスの基本を学べる。問題集をそれぞれ50問ご用意。チェックテスト、サーベイからリスクと思われるカテゴリを選んで学習することができます。※チェックテストは学習用問題から30問ランダムで選択しています。

出題画面

ドリル ハラスメント 学習問題①
2 / 10 残り8問

回答必須
ハラスメントを受けてしまった場合、あなはどのように対応しますか。

実際には、ハラスメントの被害者は少ないので、思い過ぎだろうと考え、気にしない

ハラスメントは深刻な問題なので、信頼できる人や人事担当者に相談する

ハラスメントは受ける側の気持次第なので、もっと強い精神を持つと努力する

戻る 答え合わせ



問題は実際に想定される事象から作成



問題の出題順や選択肢の並び順は毎回ランダムにすることが可能

解説画面

ドリル ハラスメント 学習問題①
2 / 10 残り8問

正解
ハラスメントは深刻な問題なので、信頼できる人や人事担当者に相談する

解説
ハラスメントにあう可能性は決して低くありません。ハラスメントを実際に受けると相当に深刻な問題となり、心身にも悪影響が出ます。自分を過信せず、信頼できる人や人事担当者に早めに相談するようにしましょう。

あなたの解答

- 実際には、ハラスメントの被害者は少ないので、思い過ぎだろうと考え、気にしない
- **ハラスメントは深刻な問題なので、信頼できる人や人事担当者に相談する**
- ハラスメントは受ける側の気持次第なので、もっと強い精神を持つと努力する

やり直す 次へ

チェックテストイメージ

16



情報セキュリティチェックテスト

情報セキュリティに関するチェックテストです。

10問の基本問題に答えることで、情報セキュリティに関する現在のあなたの理解度がわかります。
(所要時間5~10分程度)

■ 情報セキュリティ

実施状況 **未実施**

公開期間 19/10/30 00:00 ~

制限時間 20分 ※タイマーは通信環境やブラウザによって誤差が出る可能性があります

実施回数 1回まで(残り1回)

問題数 全10問

実施する(残り1回)

出題画面

テスト 情報セキュリティチェックテスト

4 / 10

残り6問

00:18:33

中断

回答必須

社内で、情報漏えいや改ざん等の情報セキュリティのインシデント(事故)が発生したら、どのように対応すべきでしょうか。

専門のセキュリティ対応組織が対応する



発生させた部門が責任を負い、最後まで問題の解決を行う



対処せずに使い続ける



戻る

次へ

お問い合わせ

会社名

株式会社イー・コミュニケーションズ(e-communications Inc.)

TEL

03-3560-3901

WEB

<https://www.e-coms.co.jp/>

会社住所

〒106-0032

東京都港区六本木7丁目15-7 新六本木ビル SENQ六本木704

試して納得！

30日の無料トライアル受付中

<https://www.e-coms.co.jp/trial>